

木知原の今昔！

46号：24・8・30

“今昔”も江戸から明治へ

時代替わり
明治シリーズ[i]

“竹やりでドンと突き出す二分五厘”

農村では「散切り頭」も見られず、いきなり「明治だ！政府が！」
と言われても分からなかったと思う程明治維新は急激変であった。

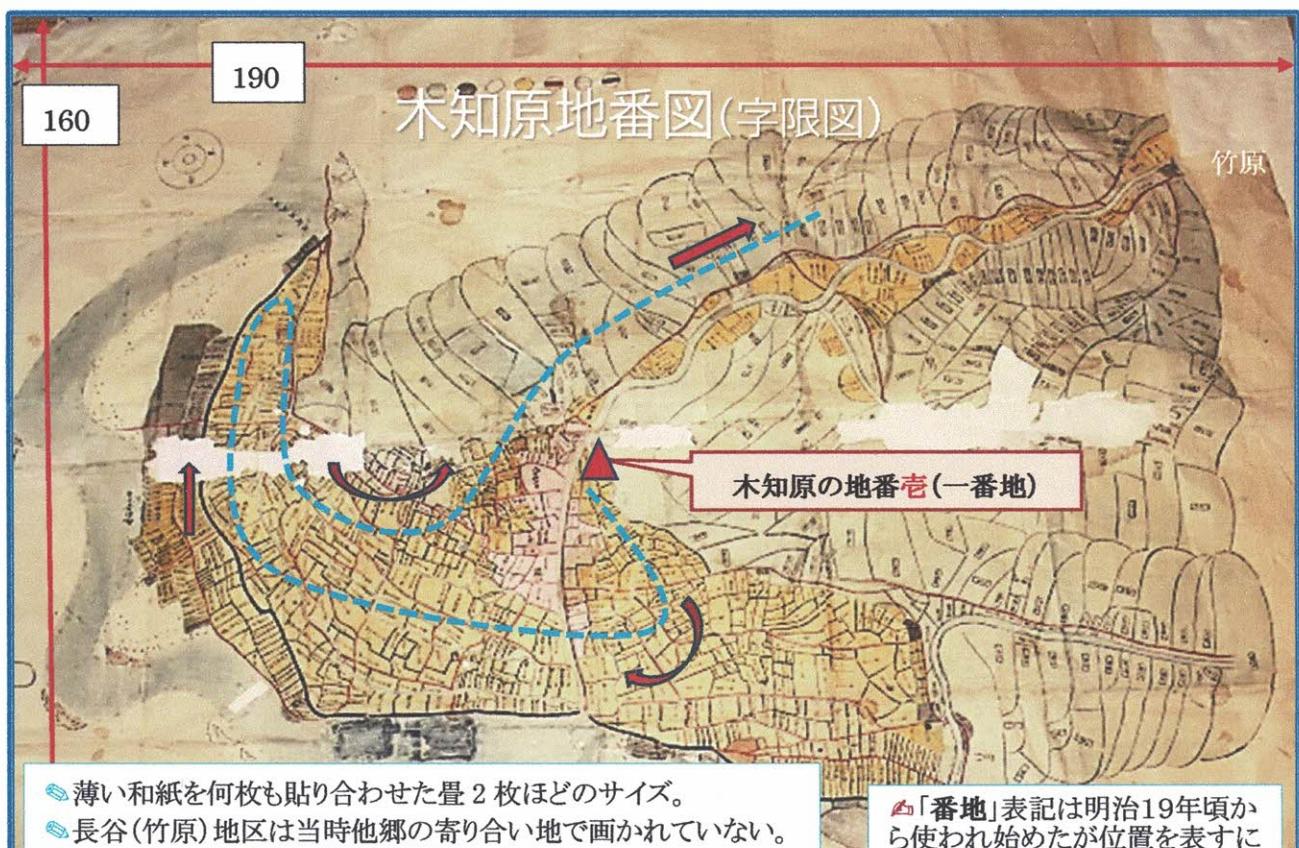
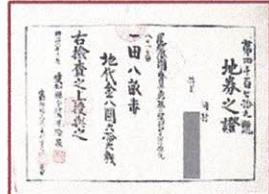


農村が明治政府（政治）に関心を持つきっかけは「地租改正」への不満や反発からと思う。

地租改正とは、明治6年にそれまで村で納めていた税（物納）を土地の所有者（個人）が地価に応じて税（金納）を納めることにした税制改革。

政府はそのために土地の調査（地番・所有者・面積等）を全国的に実施した。

👉 **地番図** 木知原版を「明治No.i」の今昔で紹介。これも宝物。
この「地番図」を基に字切絵図を作成し地価評価額を算出した地券證を発行。



👉 地租改正は当初5ヶ年計画でスタートしたが思う様には進まなかった。主な理由は、

- ◆ 地価の3%の税額は換算すると江戸時代より重くなり反対の声が高まった。
- ◆ 地価の算定方法に所有者の理解がなかなか得られなかった。
- ◆ 税制への不満から全国各地で一揆がおき始めた。
- ◆ 明治9年に起きた三重県の一揆は瑞穂市の横屋まで広まった。(木知原の様子はわからない)



👉 **政府** は思わぬ抵抗にやむなく明治10年に税率を3%から 2.5%に引き下げるを得なくなった。その世情を讀んだのが「竹やりでドンと突き出す二分5厘」の川柳である。

◆ 当時の東京日日新聞には「ちょいと」であったが戦後三重県の農業史に「ドン」と表記された以降は「ドンと突き出す」となったようである。 (川柳は今も昔も世相の鏡:日本独自の文化)